

8.建設汚泥の再生利用形態別__有効利用事例（地盤改良工事ならびに基礎杭工事）

対象原泥	発生種別	連続地中壁	地盤改良工（改良工）	基礎杭工事排泥	浚渫工事土砂
	発生土区分	建設汚泥	浚渫土		
泥土性状	泥土種別	自硬性	非自硬性		
	含水比（％）	80～150％			
	土質区分	粘性土	砂質シルト	砂質土	
	有機質	含有なし	強熱減量5％未満	強熱減量5～15％未満	強熱減量15％以上
利用区分	利用用途	盛土	埋戻し	道路路体(路床)	植生土壌
	利用形態	自ら利用	個別指定	有償売却	残土利用
要求品質	品質区分	第1種処理土	第2種処理土	第3種処理土	第4種処理土
	pH	特になし	中性		
	強度発現	1日	3日	7日	28日
	再泥化	制限あり	制限なし		
処理方法	施工方法	安定処理	スラリー化安定処理	脱水処理	
	工法名	イーキューブシステム	TAST工法		
使用固化材	高分子凝集剤	エコハードBPS			
	同上使用量（kg）	8kg/m ³			
	固化材	アッシュスター	テクノソイルCM	ハーデンM	有機質対応型
	同上使用量（kg）	80kg			
リサイクル量	日平均施工量(m ³)	400m ³	日最大施工量	1,000m ³	
	総量（m ³ ）	340,000m ³	処理機構成	100m ³ 機×2台、40m ³ 機×1台	

【概要説明】

当工事における地盤改良工事等では大量の建設汚泥がはっせいするが、従来の産廃処理では膨大なコストが発生するだけでなく、運搬距離や受け入れ側のプラント処理能力が間に合わない等の懸念があった。また、その性状対象地盤や配合により異なるなど不安定であり、無対策での本線盛土流用は難しい。そのため、現場内において適切かつ迅速な改質処理を実施し、品質を確保したうえで本線流用する必要があることから粒状固化工法が採用された。



高圧噴射攪拌工事



40m³機-排泥-貯泥調泥処理状況



100m³機-排泥-貯泥調泥処理状



処理土搬出状況